

「歴史探訪」 Part II - ⑨

江戸川木材工業株式会社

顧問 清水太郎

3月は年度末の月でもあり、催物が集中します。今回は近い順から遡って、最後に總持寺から川崎大師散策により歴史探訪します。

3月25日、「ら・ろんどの会」によるCembalo Concertが代官山教会でありました。チェンバロは17、18世紀の作曲家たちが演奏していた鍵盤楽器です。多くのものは鍵盤がピアノと黒白が逆になっています。ピアノは弦をハンマーで叩いて音を出しますが、チェンバロは弦を引^{ゆる}掻くようにしますので、弛む為、演奏前後の調律が欠かせません。当日演奏に使用するチェンバロは演奏者所有で、ミハイル・ミートケ（18世紀初期）タイプのレプリカ楽器で、ブルース・ケネディの製作です。同氏はオランダのチェンバロの巨匠で、演奏者の恩師グスタフ・レオンハルト氏が演奏会で使用したことのある大変音色の美しい貴重な楽器です。

代官山教会は天井が高く内装が木質の為、音響効果は素晴らしく、約70名の聴衆は建物ごと大きな楽器の中に収容されている感覚で、全身でバロック時代へタイムトリップした心地になりました。

曲目は、奇しくも、1685生れのD.スカララッティ、J.S.バッハ、G.ヘンデルの3名他7名の巨匠の作曲した曲で、ピアノが出現する前の時代の曲が大半でありました。今よく耳にする、バッハ作ブランデンブルグ協奏曲はチェンバロ抜きで演奏されますが、原曲はさぞ豪荘な響きであったことであろう。プレリュードとフーガやメヌエットは今でも編曲されてベートルズも演奏致しましたので、なじみ易く、J.ハイドン作変奏曲は、ドイツ国歌の原型そのものであり、我々聴衆一同堪能することが出来ました。

終了後ささやかな打ち上げ会がありましたが、そこそこに退出し、大相撲14日目の取組が気になって帰宅を急ぎ、焦って近道しようとして却って道を間違え、帰ったときは、新横綱・稀勢の里はあっけなく敗れた後で、大関・照ノ富士は星一つの差で圧倒的優勢となっておりました。しかし、翌日の逆転劇を一体誰が予測したのでしょうか。

3月20日、友人I氏の娘さんから御案内頂き、文学座で80周年を記念して、自主企画公演『メアリー・スチュアート』を観に行きました。これは50年前、杉村春子主演で上演されたシラーの戯曲から着想を得て翻案され、宿敵スコットランド女王メアリーと英国女王エリザベスの劇的な人生に焦点をあてた二人芝居です。



思い起こせば、I氏一家と箱根の山荘へ出掛け、未だ小学生だった娘さん姉妹が温泉に浸かりながら、当時流行っていたピンク・レディーの曲を身振りも楽しく歌ってくれたことを懐しく思い出しました。あれから約40年、文学座の看板女優になった姿を眩しく拝見しました。

私は英国の歴史についてはほとんど無知であります、大学在学当時、歴史学の松島教授による講義で「米国の1776年独立し、東部に創設された州の数13が国旗にある紅白の線、星の数が現在の州を表している。13の州のうちヴァージニア州はエリザベス一世の異名「ヴァージンクイーン」にちなんで付けられた」という件^{くだり}を思い出しました。

3月19日、第4回清水義也能の会があり、水道橋にある能楽堂に観に行きました。演し物は「船弁慶」です。

平家を滅ぼした源義経は兄頼朝と不仲になり、討争から逃れる為に全国各地を旅しておりました。尼崎から四国へ船出しようとする一行は、人数が多いので弁慶が差配して、愛妾・静御前をこの地に残るよう決め、静は悲しみにくれて舞を舞います。穏やかに船出しましたが、平家の一門・平知盛の亡霊が現れて大嵐に遭遇します。静と平知盛の役を清水義也氏が面と衣裳を替えて演じ、義経の役を長男6歳の義久君がみごとに演じ喝采を浴びました。

3月31日、「東海道ネットワークの会・21」第53回例会がありました。テーマは「川崎宿の名刹・川崎大師と鶴見の總持寺を巡る」です。

JR鶴見駅10時に、会員16名、懐しい元会員秋山女史、手島会長の教え子4名、総勢21名が集合しました。会計幹事の野上長老は途中転倒負傷して一旦自宅に戻り、それでも律義な同氏は昼食代金を届けるだけの為に川崎駅前のビルにある昼食会場まで来て下さいました。

總持寺は曹洞宗の総本山で境内は10万坪あります。能登国櫛比佐にありましたが、明治31年4月の大火で焼失を機に現在地に移転しました。「日域無双の禅苑曹洞出世の道場」として後醍醐天皇の綸旨を得て勅願大寺となりました。元和元年（1615）に徳川幕府により永平寺と同格の本山に列し、現在、山門、勅使門、大雄宝殿（仏殿で釈迦牟尼如来の坐像あり）、大祖道（開山堂と法堂を兼ねた本堂で千畳敷の内、中、外陣と地下に982坪の会堂を持つ）、御霊殿、放光堂、僧堂など大小50の伽藍を持つ大寺院。山門は木材業で財を成したK氏が昭和44年、夫人を亡くした供養として寄贈しました。昭和44年と云えばバブ

文学座創立80周年関連企画 文学座有志による自主企画公演

メアリー・ステュアート

石井麗子 × 鬼頭典子 演出：霧田俊哉

作：ダーチャ・マラーニ 翻訳：望月紀子

2017年3月

17 (金)

18 (土)

19 (日)

20 (月)

信濃町
文学座
新モリヤビル1F



ルの最盛期で、低く見積もっても30億はかかると思慮されます。

石原裕次郎の墓所もあります。

境内の与謝野晶子の歌碑「胸なりて踏みがし水よりすめる大雄殿の床」

末寺の数は1万2000余を数えます。

当日は奇しくも東日本大震災の七回忌に当り、普段は閉っている菊の御紋のある勅使門は開いておりました。皇室の弔問があるのでしょうか。

成願寺 總持寺が明治39年に能登の国からこの地に移るに際し、乞われて寺域を提供しました。

京浜東北線で一駅先の川崎駅で下車、駅前に坂本九が歌って世界的に有名になった「上を向いて歩こう」の歌詞と生前の姿を飾った石碑があります。九ちゃんは川崎の出身でありました。

昼食後市内散策 川崎信金本店が佐藤本陣家の子孫作詞家佐藤惣之助生誕地、歌曲に、「赤城の子守歌」、「人生の並木道」、「六甲おろし」、「人生劇場」、「湖畔の宿」など人口に膾炙した歌が多数あります。信金本店前の石碑に「青い背広で心も軽く、まちへあの娘と行こじゃないか…」の歌詞が3番まで記されておりました。

「東海道かわさき宿交流館」川崎宿に関する資料が展示されており、女性の要員が詰めていて、親切に川崎宿の生い立ち、発展について説明して下さいました。江戸時代の初期に、家康の命令で小泉次大夫という役人が多摩川から水を引き、農地の開発、まちの発展に寄与したことを知り、私の住んでいる世田谷は多摩川の北側ですが、次大夫が開削した水路が今でも機能しており、流れの底には粘土をたたき、仕上げているため、水底にも水草が育ち、水の自然浄化や水生昆虫や魚の生息に適した流れとなっていて、造園学の大家、元農学部長、進士五十八氏も絶賛しております。そのような理由で川崎宿に一層親しみが湧いて参りました。

稲毛神社 平安時代の武士河崎冠者基家の居館跡、境内に建つ子神社は明治3年の建築で、戦災に遭った川崎で最も古い。

芭蕉の句碑あり「秋十とせ却って江戸をさす故郷」

子規の句碑「六郷の橋まで来たり春の風」もあります。

京急川崎駅より大師線に乗ります。途中の駅「港町」は元「コロムビア前」、美空ひばりの「港町十三番地」所縁の地。鈴木町駅は味の素発祥の地、元社長鈴木三郎助が住んでいた。東門前駅で降り、川崎大師にお詣りして解散となりました。



總持寺は親戚の葬儀で行ったことがあり、川崎大師は初詣で行きました。東海道中では通過するだけで両名刹とも由来を訪ね、周辺を探訪するのは初めての経験であり、一層見聞は広まり、充実した1日でありました。



まもなく創立120年を迎える京急発祥の地「大師線」

出典：http://www.keikyu.co.jp/company/news/2016/20170216_16213NN.html